# PAIDを用いた糖尿病患者の心理的側面に与える因子の検討

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院　7D病棟）
山内　光子　　清水　茜　　青木　加奈　　上山　晃太朗

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院　糖尿病代謝内科）
濱澤　悠佑　　冨田　麻優子　　安威　徹也　　坂井　亮介
小暮　彰典

## 要　　旨

当院では，糖尿病患者の心理的側面を測定する手段としてPAID（problem areas in diabetes survey：糖尿病問題領域質問表）を活用している．PAIDの有効性については，すでに多くの先行研究が行われている．そこで，当院でも同様の結果が得られるか調査を行った．当院で糖尿病教育入院（教育入院）を受けた糖尿病患者100名のPAIDの結果を電子カルテから取得し，PAIDの点数と患者の年齢，性別，罹病期間，HbA1c，その他のデータに関してt検定，$\chi^2$検定，多変量解析を用いて分析を行った．その結果，高齢者における，退院前のPAIDの点数が有意に高い傾向にあった．今回の結果から，患者の高齢化と，高齢者に対する教育入院そのものの方策について考える機会となった．
（京市病紀　2020；40(1)：34-35）

key words：PAID，心理的負担，高齢者，教育入院

## 緒　　言

当院の糖尿病教育入院（教育入院）は，基本的なコースが7泊8日で，血糖コントロールの改善を目指すコースが11泊12日，週末を利用した3泊4日のコースがある．しかし，教育効果を期待して早期に入院する患者は少なく，高血糖の是正を目的とした緊急措置入院が多い．そのため，一時的に血糖コントロールが改善しても，再び教育入院を繰り返す者が少なくない．

血糖コントロールを難しくしている要因は患者によってさまざまだが，糖尿病患者では糖尿病そのものに否定的な感情を抱きやすく，自己管理を求められることへの心理的負担が治療の妨げとなることが多い．中でも，若年，女性，薬物療法（特にインスリン療法），合併症，入院，低血糖経験症例，HbA1c高値などが患者の心理的負担が高いと報告されている[1)]．PAIDは，糖尿病に対する負担感情から構成された20項目の質問表で，点数が高いほど糖尿病に対する心理的負担が高い．

そこで，当院でも同様の傾向が得られるかを調査するため，当院で教育入院を受けた患者の，PAIDに影響を与える因子について分析を行った．

## 方　　法

2019年1月から同年12月までに，当院で糖尿病教育を行った糖尿病患者100名のPAID（入院当日と退院前日）を電子カルテから取得し，性別，年齢，罹病期間，治療内容（注射薬・内服薬），教育歴，独身，就労，教育パスの種類，合併症（神経障害・網膜症・腎症），HbA1c，病型（1型・2型），喫煙，飲酒，大血管障害，家族歴，精神疾患，生活状態（高齢独居・高齢世帯・その他）についてt検定，$\chi^2$検定，多変量解析を用いて分析を行った．

## 結　　果

1．HbA1cが高い人は，入院時のPAIDの点数が有意に高く，退院時に改善した割合が多かった．
2．年齢が高い人は，退院前のPAIDの点数が有意に高く，入院によるPAIDの改善度が小さかった．
3．高齢で独居の場合，高齢の複数世帯の人と比較して，退院前のPAIDの点数が有意に高かった．
4．内服薬のない人は，PAIDの改善度が有意に大きかった．
5．就労のある人は，ない人と比較して，PAIDが改善した割合が有意に多かった．

## 考　　察

糖尿病患者の心理的側面に影響を与える因子について，性別，年齢，罹病期間，治療内容など17項目を抽出し分析を行った．その結果，HbA1c，高齢者，高齢独居，内服薬のない人，就労について有意差を認めた．中でも，高齢者は，教育入院を受ける前に比べ，受けた後のほうがPAIDの数値が高く，患者の心理的負担が増加していた．

京都市立病院を取り巻く65歳以上の高齢者人口に関しては，令和元年9月時点で京都市内の約3.6人に1人が65歳以上と報告されている．今回，調査を行った入院患者100名のうち，65歳以上の高齢者は60%であった．そのことから，当院で教育入院を受ける患者の高齢化が顕著であることが分かった．

今回の結果を受け，身体的機能が低下している高齢者に対し，いかに有効な治療法であったとしても，インスリン注射や自己血糖測定の手技，食事療法，運動療法などの方法論だけを習得させることは，逆に治療への負担感に繋がることが分かった．高齢者に教育入院を行う際は，教育入院パスの枠にとらわれず，PAID で患者の優先すべき問題を取り上げ，関わっていくことが重要であると再認識することができた．今回の調査で，高齢者に十分なサポートができていなかったことが浮き彫りとなったが，そのことによって，高齢者への支援のあり方を考える足掛かりとなった．

## 結　　語

身体的機能が低下していく高齢者ほど，糖尿病とその治療に対する心理的負担や感情面に十分配慮した関わりが必要であり，PAID の結果をチームで共有することで，生活の質を落とすことなく療養生活が送れるようサポートしていく必要がある．

## 引 用 文 献

1）藤井仁美，渡辺裕子，軽部憲彦，他：糖尿病臨床における Problem Areas In Diabetes Survey（PAID）の有用性について．糖尿病　2008；51（6）：497-505.

Abstract

Studies on the Factors Affecting the Psychological Aspects in Diabetic Patients Using the Problem Areas in Diabetes Survey

Mitsuko Yamauchi, Akane Shimizu, Kana Aoki and Koutarou Ueyama,
Department of Nursing Ward 7D, Kyoto City Hospital

Yuusuke Hamasawa, Mayuko Tomita, Tetuya Yasui, Ryousuke Sakai and Akinori Kogure
Department of Diabetes and Metabolism, Kyoto City Hospital

At our hospital, we have been using the Problem Areas in Diabetes Survey (PAID) to measure the psychological aspects in diabetes patients. The effectiveness of PAID has been well studied. We conducted a survey to determine whether similar results could be obtained at our hospital. We obtained the electronic medical records of 100 diabetic patients who were hospitalized for education of diabetes, and analyzed PAID score, patient's age, gender, duration of illness, HbA1c, and other data, using the t test, $\chi^2$ test and multivariate analysis. As a result, the PAID score before leaving the hospital tended to be significantly higher in elderly patients. This study revealed the aging of the patients, and raised concern on the application of educational hospitalization for the elderly patients.

(J Kyoto City Hosp 2020;40(1):34-35)

Key words: PAID, Psychological burden, Elderly, Educational hospitalization